

国語問題

〔注意事項〕

- 一、試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
- 二、問題は十八ページに渡っており、・で構成されている。
ページの抜けや印刷不備があった場合には、直ちに試験監督の先生に申し出ること。
- 三、解答はすべて解答用紙に記入し、受験番号・氏名をもれなく、正確に記入すること。
- 四、問題冊子の表紙にも、受験番号・氏名を必ず記入すること。

受験番号

氏名

◎文中からそのまま抜き出して答える場合、句読点や記号は一字とすること。また、ふりがなのある漢字は、ふりがなをつけなくてもかまいません。

—
次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

高校生の川原蒼唯（「あたし」）はいじめにあっている須藤美空を助けたために、清水さんたちのイジメの標的になってしまった。碧と名乗る少年が心の支えになっていた。

次の日。透き通るような青空が広がる日。気持ちのよい太陽を受けながら登校すると、今まであたしや美空に向けられていた冷やかな視線の先が別の人物へと移っていることに気づいた。

清水さん……。自分の席に座って、携帯をいじっている清水さん。その姿は今までと変わらず、ドウドウとしたものだけど、周りの反応は違った。

「いくら何でも、カンニングのハンニンに仕立て上げるのはちょっと……ねえ」
「やり過ぎ。ひどいよね」

そんなコソコソ話が、あちらこちらで聞こえる。清水さんは毅然としていているけれど、あたしでも聞こえるんだから、清水さんの耳にも届いていると思う。

今まで自分がいじめられるのを恐れて、清水さん側についていたくせに……。確かに、清水さんもひどいことをしたけれど、あたしは、急に良い人ぶって美空の味方を始めるクラスメイトたちのほうが、よっぽど質が悪いんじゃないかと思った。

①あたしは大きなため息をつき、清水さんの様子を少し気にしながら、自分の席へと着く。まだ朝のHRまで何分かあるけど、とりあえず一時間目の授業の準備をしようと思ひ、あたしは教科書を出すためにバッグを漁っていた。

その時だった。

「あのさ……清水」

清水さんの元に、彼女の取り巻きたちがやってきた。清水さんは特に返事をせずに、目だけを向ける。

「昨日は……その、ごめん。言い過ぎた」

「確かにやり過ぎかなって思ってたけど、それを言い出せなかったの」

「ほんと……ごめんね」

さすがに、今までずっと一緒に過ごしてきた友達に対して、ひどいことを言ってしまったと悔やんだのか。本当に申し訳なさそうに眉をハの字に下げて謝る取り巻きたち。しばらく黙っていた清水さんは、静かに立ち上がる。そして、鋭い目で取り巻きたちを睨んだ。

「どの面下げて、そんなこと言ってるの？」

取り巻きたちの顔が強ばる。清水さんは、なおも強気な態度で続けた。

「仕方なく私と一緒にいたんでしょ？ 友達じゃなかったんでしょ？ だから昨日クラスの皆と一緒に私悪口言ってたんでしょ？ あれが本音だったんでしょ？」

取り巻きたちが黙り込む。清水さんが怒っているのが、傷ついていることが、あたしには手に取るように分かった。

「それはその……。でも、友達じゃないなんてそんな……」

——バンツ！

しどろもどろで取り巻きの一人がそう言った時、清水さんが机に叩くように手をついた。

「じゃあ、昨日のあの言葉は何だったの!? あんなこと言っておいて、次の日になったら私に謝ってきて一体どういうつもりなの!? まさか仲直りとかじゃないわよね？ 私たち最初から友達なんかじゃなかったんだから!!」

怒鳴ったあと、肩で大きく呼吸する清水さん。皆が何事かと騒ぎ始めて、必然的に清水さんたちに視線が集まった。

清水さんが怒るのも無理ない。だって、陰かげであんなことを言われたあとに謝まげってこれられても、全くもって意味が分からない。信じていた人たちに傷つけられたのだから、許してまた今までどおりにしろと言うほうが無理がある。

だけど、清水さんの言っていることのほうが普通だ、と思ったのはどうやらあたしだけだったらしい。

「はあ!? 今まで自分がしてきたこと全部①棚たなに上げて、よくそんなことが言えるわね!!」

驚おどろくことに、取り巻きたちが反論してきたのだ。

「今までどれだけあんたの為ために協力してきたと思ってるの? いくら無茶なと言われても従おってきたのは、須藤さんを敵かたきにする理由を聞いて、少なからずあんたも可哀想かわいそうだなんて思った部分があったからで。だからこそ、昨日の発言は良くなかったかなって思ってたわざわ謝まげってるのに、その態度はないんじゃないの!？」

他の取り巻きたちも同じ気持ちなのか、揃そろって清水さんを睨にらみ付けていた。清水さんも言い返してくるとは思わなかったのか、目を丸くして驚おどろいている。

③ それだけならまだここだけのケンカだけで済んだかもしれないのに、最悪④な事態まで起こってしまったから、あたしは思わ④ ず **B** を抱かかえた。

「そうよそうよ! 清水さん、散々須藤さんたちいじめてたじゃん!」

「それなのに自分が悪口言われたらキレんのかよ!」

「最低!」

口々に言い出したのは、ただの野次馬⑤だったはずのクラスメイトたち。清水さんたちの問題に口を出してきた上に、あろうことか、取り巻きたち側の味方になったのだ。数十人对一人じゃ、明らかに分が悪い。

というか、わざわが皆が取り巻きたちの味方になる意味が分からない。まるで、今まで清水さんに言えなかった文句や愚痴ぐちを、この機会に乗じてぶちまけているような、あたしはそんな感じにしか見えない。どうして、そんなふう清水さんを責せめられるのだろう。あたしや美空からしたら、清水さんたちに合わせて笑ったり、見て見ぬふりをしてきたクラスの皆のほうか

よっぽど最低だよ。

「何なのよ、皆して……」

さすがの清水さんも、目に涙を浮かべる始末。

もう……我慢出来ない……！

そう思った時、カラカラと控えめな音を立てながら教室のドアが開き、美空が登校してきた。みんなは怒鳴り合っているから気付かなかったけれど、あたしはすぐに美空のほうに視線を移した。

何事かとオロオロしている美空。だけど、清水さんに浴びせられる罵声を聞き、戸惑いつつも、徐々にクラスメイト対清水さん⑤という今の状況に気付いたみたい。下唇を噛み、握り締めた拳を震わせながらその様子を見ているあたしのことも。

許せない。今さら皆良い人ぶって。清水さん一人だけを悪者に仕立て上げて。許せない。だからごめんね、美空。あたしは美空を苦しめてきた人を……。

あたしが何をしようとしているのか分かったのか、美空はあたしの目を見て微笑むと、大きく頷いてくれた。⑥

「……っ、いい加減にしなさいよ!!」

あたしは、そう叫んだ。

『蒼唯の思うとおりに……』

『蒼唯は、そういう人だから』

頭の中に蘇った碧の言葉に背中を押されながら。

「黙って聞いてれば、皆あたしや美空の気持ちを無視して言いたい放題、好き勝手なこと言って……!! あたしたちからすれば、いじめてきた清水さんも、言われたとおりに仕方なく従ってたあんたたちも、それを笑って見てるだけのクラスの皆も、全く同じよ!! 自分のことを棚に上げてるのは清水さんだけじゃなくて皆一緒なのよ!!」

ごめんね、美空。あたしは、清水さんを、助けるから。

「清水さんは、確かにあたしたちにたくさん嫌がらせしてきた！ それには原因があったかもしれないけど、清水さんは間違ったことをしてたと思う！ でも、あんたたちにはそんな間違った方向に進む清水さんを止められる時があったんじゃないの!？」

そうやって、あたしは取り巻きたちをビシッと指差す。苦虫を噛むような表情で、取り巻きたちはお互いの顔を見合わせた。

「皆もそうだよ！ 今まであたしたちがどんなひどい目に遭ってても見て見ぬふりだったし、清水さんと一緒にあたしたちを笑ってたじゃん！ それなのに今更あたしたちの味方ぶられてもコマルし、皆に清水さんを責める資格も権利もない！ だって、清水さんと同じことを皆だっしてたんだから！」

次は、クラスの皆を一人ひとり指差していく。ムツとする人、俯く人、目を泳がせる人、泣きそうになる人、その反応は様々だった。

「清水さんに偉そうなことを言う前に、まずはあたしたちに、特に美空に、ちゃんと謝ってからにしなさいよっ!!」

ガーツと勢いにマカせて、あたしは言いたいことを言い切った。言い終わったあとは清々しい気持ちでいっぱいだったけれど、教室内は静まり返っていて、少し言い過ぎたかと反省もした。思わず美空のほうを見ると、美空はふんわりと穏やかな笑顔を向けてくれていた。

最終的に清水さんを助けるというか、自分が言いたいことを言っただけになってしまったから、美空がどう思うか考える余裕もなかったことに不安になったけれど。美空のそんな様子を見たらそんな心配はいらなかったみたいで、ホッと安堵の息が漏れた。

「……ごめん」

小さく、あたしと美空の C にそんな言葉が届いた。

「「えっ……!」」

思わず揃って声を上げて振り返ると……。

「清水さん……」

真つ先に謝ってきてくれたのは、俯いたまま顔を上げようとはしないけれど、紛れもなく清水さんだった。これには、あたしたちだけでなく、他の皆も驚いたみたいで、誰もが目をパチクリさせている。

「今まで……ごめん……」

清水さんはもう一度そう言って、あたしたちに勢い良く頭を下げると、逃げるように教室を出ていった。全員がその様子を呆然としながら見ていた。

しばらくして、あたしと美空の元に清水さんの取り巻きたちがやってきて、

「その……今までごめんなさい。いっぱい、いろんなひどいことして……」

清水さんと同じように謝ってくれた。

「あたしたちに謝れたんだったら、清水さんにも今度はちゃんと誠意を持って謝れるよね？」

返事を返す代わりにそう言うと、取り巻きの皆は苦笑する。

「……うん。そのつもりだよ」

取り巻きのうちの一人が言ったあと、それに続けて他の人たちも頷いた。そのあと、クラスの皆も、今までのことをきちんとして謝ってくれた。

やっと、このクラスに出来たあたしと美空の居場所。それまでつらいことがいろいろあつて、苦しい思いだつてたくさんした。それを乗り越えられたから、やっと得られた居場所なんだと思う。嬉しい。やったよ碧。

そう安心したのも束の間、美空があたしの制服の裾をちょんちょんと引っ張ってきて。「どうしたの？」と聞くと、思いもしなかったことを口にした。

「蒼唯ちゃん。私もね、清水さんにちゃんと謝りたい」

「えっ？ 謝る？ 清水さんに？」

首をタテに振って、美空は今まであまり見たこともない真っ直ぐな目であたしを見る。

「だから、蒼唯ちゃんも一緒に来て。清水さんのところ。蒼唯ちゃんがいってくれたら、私頑張れそうな気がするから」

何を謝るんだろうと思ったけれど、美空があまりにも真剣なのでそれ以上の質問を出来ないまま、あたしは「わ、分かった」と答えた。

(注1) 毅然としている…強い意志を持って平静でいる。

(注2) HR：教室で出席の確認や連絡などを行う時間。

(実沙季『青空にさよなら』)

問一 〓線㊦㊧のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

問二
~~~~線  
①「手に取るように」・②「しどろもどろで」・③「必然的に」・④「棚たなに上げて」はどのような意味ですか。最も適当なものをそれぞれ後の中から選び、記号で答えなさい。

①手に取るように

- ア 実際に手でふれてみてしっかり理解して。
- イ まるで目の前にあるかのように具体的に。
- ウ なんとなく理解することができるように。
- エ 難しいことでもある瞬間しゆんにふとわかつて。

②しどろもどろで

- ア たよりなく、面白くないままで。
- イ 気持ちがひどく落ちこんだ話し方で。
- ウ 話の内容がまとまらずに口調が乱れて。
- エ 自分を守るためにとっさにうそをついて。

③必然的に

- ア たまたまそうなったように。
- イ そうならざるを得ない感じで。
- ウ 自然と周りの様子にあわせて。
- エ そういった状態にみせようとして。

④棚たなに上げて

- ア 自分を立派にみせて相手を見下して。
- イ たいせつにして好感度だけを気にして。
- ウ ほかのものより良いものだと主張して。
- エ 不都合なことをかくして問題にしないで。

問三 —線①「あたしは大きなため息をつき」とありますが、誰だれに対して「ため息」をついたのですか。最も適当なものを次の中から

選び、記号で答えなさい。

- ア 清水さんのいじめを止めることができない自分。
- イ 大切な友だちである美空をいじめていた清水さん。
- ウ 自分の都合の良いようにしか行動しないクラスメイト。
- エ クラスでいじめが起きているのに何もしてくれない先生。

問四 —線②「清水さんは特に返事をせずに、目だけを向ける」とありますが、このときの清水さんはどのような気持ちでしたか。

最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 急に近づいてきた取り巻きたちの行動に、これからも今まで通りに仲よくできそうだと期待する気持ち。
- イ 今までは対等な関係だと思っていた取り巻きたちに、また悪口を言われるのではないかとおびえる気持ち。
- ウ ふだんは仲良くしている取り巻きたちの声が冷たいものだったので、もう友だちはいないのだと悲しむ気持ち。
- エ 昨日はクラスのみんなと一緒に「私」の悪口を言っていた人たちが声をかけてきたので、不信感でいっぱいな気持ち。

問五 —A C に入ることばとして最も適当なものをそれぞれ次の中から選び記号で答えなさい。同じ記号を使つてはいけません。

- ア 頭
- イ 膝ひざ
- ウ 肩かた
- エ 胸
- オ 耳
- カ 目

問六

——線③「目を丸くして驚いている」とありますが、清水さんがこのような様子でいるのはなぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア いつもは逆らわない取り巻きたちが、めずらしく反論してきたから。

イ 取り巻きたちの言い分がじゅうぶんに納得させられるものだったから。

ウ ただのけんかでは終わらずに、まわりの人までも巻き込んでしまったから。

エ それまで悪口を言っていなかった取り巻きたちが反省した態度をみせたから。

問七

——線④「最悪な事態」とありますが、具体的にどのような事態ですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 清水さんが取り巻きたちのことばに耐えられなくなって、涙までこぼしてしまったこと。

イ 取り巻きたちがクラスメイトに次々と声をかけて、どんどん味方を増やしていったこと。

ウ 清水さんと仲よくしていた取り巻きたちが、清水さんをつぜんいじめの標的にしたこと。

エ 清水さんと取り巻きたちの口げんかが、清水さんと多勢のけんかに広がってしまったこと。

問八

——線⑤「下唇を噛み、握り締めた拳を震わせながら」とありますが、このときの「あたし」はどのような思いでしたか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 今までいじめを見て見ぬふりをしていた人たちが急に態度を変えたことに対する憤りを、必死に抑えようとしている。

イ 勇気を出して学校に来た美空が教室に入ってきたのにもかかわらず、誰もかわろうとはしないことにあきれている。

ウ 今まで清水さんに言えなかった文句やぐちを、今もみんなと同じように言えない自分をとてなさげなく思っている。

エ 何事かとオロオロしている美空がなかなか今の状況に気づかないように、やりきれないような思いをいだいている。

問九

——線⑥「美空はあたしの目を見て微笑ほほえむと、大きく頷うなずいてくれた」とありますが、このときの「美空」はどのような気持ちでしたか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 「あたし」が考えていることを理解しつつ、自分がかかわりたくないと思う気持ち。
- イ いつも自分の近くにいた「あたし」の存在に気づいて、安心してほっとした気持ち。
- ウ 清水さんが目に涙なみだを浮かべる姿を見たことで、すっかり気が晴れたことを伝える気持ち。
- エ 「あたし」の思いをくみ取り、「あたし」の思い通りにしてほしいと信頼あづかしている気持ち。

問十

——線⑦「苦虫を噛むような表情」とありますが、取り巻きたちはなぜこのような表情になったのでしょうか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 同級生に間違ちがった注意をされたことで、いかりを感じて素直すになれなくなったから。
- イ はっきり言われたことで自分たちのいたらなさに気づき、恥はずかしくなってきたから。
- ウ 的を射たことを言われて、自分たちのこれまでの言動に後ろめたい気持ちを感じたから。
- エ 自分の言い分がまったく理解されていないことがわかって、不満に思うようになったから。

問十一

——線⑧「蒼唯ちゃんがいってくれたら、私頑張がんれそうな気がするから」とありますが、美空にとって蒼唯はどのような存在ですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア どんなときにも相談に乗ってくれて話を聞いてくれ、静かに見守ってくれる存在。
- イ おこりっぽくて性格的には正反対であるが、どうしても気になって仕方がない存在。
- ウ 何か行動を起こそうとしたとき、そばにいてくれて背中を押おしてくれる頼りたよりになる存在。
- エ 真剣まけんにお願いすれば、深く考えることなく何でも手伝ってくれるやさしさあふれる存在。

二

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

著作権の都合上、大問二（P12～P18）は省略します。

著作権の都合上、大問二（P12～P18）は省略します。

著作権の都合上、大問二（P12～P18）は省略します。

著作権の都合上、大問二（P12～P18）は省略します。

著作権の都合上、大問二（P12～P18）は省略します。

著作権の都合上、大問二（P12～P18）は省略します。

著作権の都合上、大問二（P12～P18）は省略します。